

クラウド環境への移行で情報資産管理とBCP対策を実現した事例



株式会社サジェコ

株式会社サジェコ

業種	住宅設備
教職員数	25名
本社所在地	北海道札幌市
主な事業内容	内装 住宅設備販売 総合ビルメンテナンス ICTソリューション業

ホームページ <https://sajco.jp/wp/>

導入サービス

- クラウド導入・運用サービス
- クラウドゲートウェイ クロスコネクト

クラウド利用サービス

Amazon FSx for Windows File Server
AWS Managed Microsoft AD

サービス導入時期 2021年6月

ご担当者さま

代表取締役社長 伊藤 直樹さま
ICT 技術部 飯高 司さま

クラウド導入前の課題

- 2018年に北海道胆振東部地震をきっかけに物理サーバーに依存していることに危機を感じた

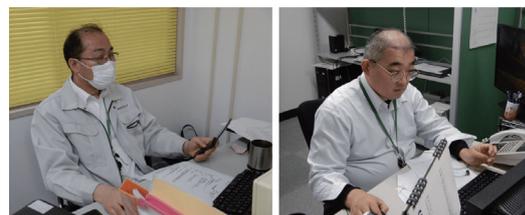
NTT 東日本を選んだ理由

- 既存のネットワーク回線を活用し、閉域網でクラウド環境を構築できたから

クラウド導入後の効果

- サーバーを全てクラウド環境に統合したので情報資産のスリム化を実現
- 災害時のBCP対策としてリスク管理を実現

オンプレミス環境からクラウドへ移行し、情報資産管理やBCP対策を実現している株式会社サジェコさま(以下、「サジェコさま」といいます。)の事例をご紹介します。



代表取締役社長
伊藤 直樹 さま

ICT技術部
飯高 司 さま

1. ご相談前の課題と背景

2018年に北海道胆振東部地震をきっかけに物理サーバーに依存していることに危機を感じた

これまで、北海道内4拠点で事業展開しており、それぞれの拠点に物理サーバーを設置しオンプレミス環境でIT管理をしていました。そんな折2018年に北海道胆振東部地震によって、本社事務所が1日停電に見舞われました。当時は、どうやって会社に行こうかというレベルの地震で、行ってみたら当然電源がつかような状態ではありませんでした。

偶然にも札幌市内の中でも復旧が早かったので早く仕事に着手できましたが、もっと時間がかかっていたら事業の継続性として被害が大きくなっていたと思います。以前管理していた物理サーバーにはUPS機器を接続して

いたので、データの消失や故障はありませんでしたが、ADサーバー・ファイルサーバーとして利用していたので業務にダメージがありました。

- 各社員がパソコンにログインできない
- 必須であるファイルにログインできない

このような経緯があり、物理的なサーバーに依存していることに危機を感じ、BCP対策としてクラウド化を検討しました。(伊藤社長 飯高さま)

2. クラウド・AWSを選んだ理由

IT危機管理としてBCP対策と働き方改革を推し進めていくため

クラウドへ移行を決めた理由：“BCP対策とテレワークの推進”

災害によりこれまでの物理的なサーバーの管理に危機を感じ、BCP対策としてクラウド化を選びました。

これまで物理サーバーを4拠点で管理し、各拠点でサーバーの管理をしていました。管理自体も主に1人で管理を行っており、サーバートラブルがあれば長距離を移動している状態でした。その管理体制であることや北海道胆振東部地震も起きたことでクラウド化を進めていきました。

同時にコロナというご時世なので外部からでもアクセスでき、どこでも働ける環境を作る意図もありました。これまで各拠点間のデータ共有は、メールなどで行っていたので、見たいと思ったときにすぐ情報を見れる状態ではありませんでした。今後の事業拠点の増設を考えた際に事業効率を上げるという視点でもクラウドに移行するべきだと考えていました。

実際にコスト面でも不安な部分はありましたが、利用してみないとわからない部分もあったので移行に踏み切りました。(伊藤社長 飯高さま)

AWSを選んだ理由：“既存のIT資産を活用しながら構築でき、コスト面でリーズナブルだった”

既存のネットワーク回線を活用しながらAWSを構築することで安く移行できることを知り、AWSを選びました。以前からNTT東日本さまのVPN回線を利用し、各拠点間のネットワーク環境を構築していました。NTT東日本の営業さんから丁寧に話を頂き、既存のネットワーク回線を活用してAWSを構築することでより安くできると教えて頂いたのです。丁寧に話し頂くことで納得した上でAWSを選ぶことができました。(伊藤社長 飯高さま)

3. NTT東日本を選んだ理由

既存のIT資産を活用し、閉域網でクラウド環境を構築できたから

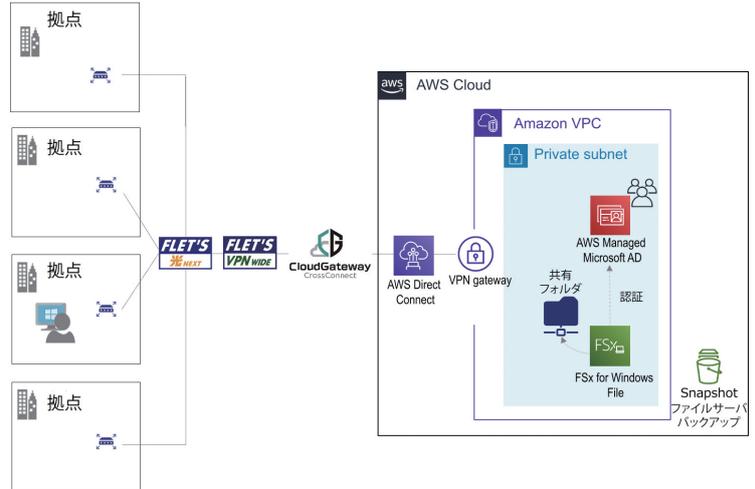
以前からNTT東日本さまとお付き合いがあり、各事業所の拠点毎にVPNワイドを敷き、VPN網のネットワーク環境がありました。

クラウド化では、特にセキュリティ面を重視していたので、既存のIT資産である既存のネットワーク回線を活用できないか悩んでいた時にNTT東日本のクラウドゲートウェイクロスコネクトを見つけ、営業担当の方に連絡しました。

ゼロベースでクラウド化となった場合には、どこかに公衆網が関わると思っていたので不安でしたが、既存のネットワーク回線を活用しながら、セキュリティ高く導入できたのはNTT東日本さまのおかげです。

当時は、クラウド化に伴い別のクラウドや専用サーバーも検討していましたが、NTT東日本さまの安心感が大きかったです。営業担当の方もわかりやすくご提案頂いたので、スムーズに着手することができました。

(伊藤社長 飯高さま)



4. クラウド・AWS導入後の成果

最適なコストでサーバートラブルの不安がなく、安定したサービスを提供できている

成果①：サーバーを全て統合したので情報資産のスリム化を実現

ADサーバー・ファイルサーバーを完全にクラウド環境に統合したので情報資産のスリム化に繋がりました。これまで4拠点の各事業所に物理サーバーを置いていたため、ファイルやデータを見つけるのも時間がかかっていました。ですが、完全にクラウドへ移行したことで情報管理がしやすくなり、非常に楽になりました。

その結果、各事業部からの数値・進捗などの経営に関わる資料をすぐに見つけることができ、意思決定の判断を早めることに繋がっています。情報資産のスリム化を実現できたので、長い間培ってきた古いデータやファイルの整理もでき、クラウド化の大きな恩恵を受けています。

成果②：災害時のBCP対策としてリスク管理を実現

クラウドへ移行したことで災害時でも対応できるBCP対策を実現できました。2018年に北海道胆振東部地震が起きた際に1日程営業できない時間が生まれてしまいましたが、クラウドへ移行したことで懸念事項を払拭できています。

また、将来的なリスクコストも抑えることができ情報資産の運用としてクラウド化したことで安心感があります。これから会社の規模が大きくなり、事業を増やしていくことを考えるとサービスを止めることはできません。物理的なサーバーを増やす訳にもいきません。

今後の発展を考慮した際にもやはり、クラウドに移行できリスク管理ができている点では非常に安心してしています。(伊藤社長 飯高さま)

※文中記載の組織名・所属・肩書き・取材内容などは、すべて2022年6月時点(インタビュー時点)のもので、
 ※事例はあくまでも一例であり、すべてのお客さまについて同様の効果があることを保証するものではありません。
 ※Amazon Web Services (AWS)、Amazon FSx for Windows File Server、AWS Managed Microsoft ADは、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。

